

ANNUAL REPORT 2018



石巻市子どもセンターが出来た経緯



震災直後2011年5月から6月にかけて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下「SCJ」という)は、宮城県、岩手県の子どもたち約1万人にアンケートを実施し、90%近い子どもたちが「まちのために何かしたい」と思っていることを明らかにしました。その声を受けてSCJが子どもたちに呼びかけ、岩手県山田町・陸前高田市・宮城県石巻市3つの地域で子どもまちづくりクラブが発足しました。石巻市では、2011年7月に石巻市子どもまちづくりクラブが発足。同年夏には、復興に向けたまちづくりをめざし、“夢のまちプラン”を作成し、そのプランを市に提案しました。“夢のまちプラン”の中の色々な想いを1つにし、実現化したのが「石巻市子どもセンター」(以下、子どもセンター)です。地域と連携しながら子どもたちが企画・デザインを行い、2013年12月に完成し、SCJから石巻市に寄贈されました。寄贈後は、石巻市の児童館として運営されています。

子どもまちづくりクラブが考えた子どもセンターのコンセプト

石巻の活性化のために中高生が中心となってつくり、運営していく施設
みんなが過ごしやすく、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所

子どもセンター 条例全文

子どもは一人の人間であり、子ども一人ひとりが生まれながらに権利を持っています。子どもが幸せに健やかに成長するためには、多くのことが必要であり、子どもたちは次のように語ります。

私たちを中心に、話し合ったり、ふれあったり、交流できる場が必要です。

それにより、大人も含めた幅広い年代の人とのつながりを大切に、絆を深めることができます。

みんなが楽しめて、ゆったりできる場が必要です。それにより、私たちは安心して心と体を休めることができ、笑顔が増えます。

私たちが運動できる場が必要です。それにより、体を動かして楽しく遊ぶことができ、心身ともに、健康に成長することができます。

私たちが学べる場が必要です。それにより、お互いに教え合い、考えることが好きになり、理解することの楽しさを知ることができます。

私たちが自由に社会に意見を発信できる場が必要です。それにより、自主的に活動できるようになります。

さらに、まちの未来について考えることが地域の活性化につながり、さらに多くの人に私たちのまちのことを知ってもらうことができます。

だから、私たち子どもが中心となって活動する子どものための施設をつくっていききたいです。

石巻市は、この子どもたちの想いを形にするための施設となる石巻市子どもセンターを設置することにより、生まれながらに持っている子どもの権利が尊重され、子ども一人ひとりが幸せに健やかに成長できる社会につながることを期待し、ここに「石巻市子どもセンター条例」を制定します。

指定管理者制度の子ども参加

子どもセンターは、2014年1月に開館し、これまで石巻市が運営してきました。2018年4月から、民間の団体が運営する「指定管理者制度」が始まることになりました。子どもセンターは、子どもたちが企画・デザインし建設され、開館後の運営にも参加していることから、その指定管理者選定の過程においても、子どもたちが意見を伝えられるように「子ども委員」が設置されました。指定管理者を選定する際に、利用者である子どもの声が聴かれることは全国的にも珍しい取り組みです。



指定管理者「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」

「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」は、「NPO法人ベビースマイル石巻」と「NPO法人子どもにやさしいまちづくり」の2団体が構成されています。指定管理者選定のプレゼン時、子ども委員からの「子どもの最善の利益をどう考えますか?」「らいつの構想段階から、子どもたちとつながってきた地域や企業との絆をしっかりと引き継いでほしい」「スタッフを変えないでほしい」という声に回答しながら、単なる施設運営ではなく、子どもたちの大切な居場所を守る覚悟が必要だと改めて感じました。子どもの権利を柱に「子ども参加」で、子どもたちとともに元気に運営しています。



2018年1月21日 子どもセンター4周年記念事業 らいつの日004(ゼロフォー)

4月から指定管理制度を導入するということで、『ぼくらのつくったこれまでのらいつ わたしたちのつくるこれからのらいつ』というキャッチコピーのもと、らいつの日004を開催。「らいつの今までを振り返り、伝えていく。またらいつのこれからをみんなで考えていこう。」という思いがこのキャッチコピーには込められています。当日は、午前の部到现在までお世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えるための「感謝の会」、子ども会議とまちづくりクラブの昨年1年間の活動を報告する「活動報告会」、さらにこれからのらいつをみんなで意見を出して語り合う「意見交換会」を行いました。午後の部からは来館した皆さんをおもてなしする「カフェ」や、一緒にらいつの日を盛り上げ、楽しむための「カラオケ大会」「レックツイストレジャーハンター」「ライブ」「ビンゴ大会」を開催。またらいつのこれまでの歩みなどをまとめた「らいつ年表」や「エピソード」の展示、最後には「らいつへメッセージ動画」を上映し、来館したみなさんと「らいつ」をつくる庄巻の「モザイクアート」のお披露目など盛りだくさん！沢山の人の笑顔と歓声に包まれた1日でした。



子どもセンター事業体系図

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。

子どもの権利には「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」4つの権利があります。

この4つの権利に基づき、子どもが遊ぶことを通して育つこと、子どもの声が子どもセンターの事業や運営に活かされること、地域や社会で子どもが力を発揮できる機会をつくることを大切にしています。

子どもセンターの運営

子どもセンター運営会議

子どもセンターの事業

子ども参加事業

子どもまちづくりクラブ
まきトーーク
子ども会議
子ども企画
Big Voice
子ども実行委員企画イベント
└ ハロウィン祭り・らいつ夏まつり
らいつの日004
子どもの権利啓発

子どもエンパワー事業

アートラボ
料理王
Earth Teens
青春力 -Youth Power-

子育て支援事業

親子ではび☆はび
親子でほかほか
音楽であそぼう！
ベビーマッサージ
パパ講座
Mカフェ
休日子育て相談事業

地域との連携事業

企業との連携事業

移動児童館事業

稲井、釜、蛇田

研修事業

子ども子育て支援者講座

子どもセンター 運営会議



運営委員は、子どもまちづくりクラブから2名、子ども会議から3名、おとな委員5名で構成されています。子どもまちづくりクラブは、子どもセンターの企画・デザインをしてきた視点から、子ども会議は、子どもセンターを利用する子どもの代表として会議に参加。おとな委員は地域で子どもを見守り、子どもに関係する活動をしている視点から参加し、子どもセンターが子どもの声を反映して運営されるよういっしょに考えます。

3月 実施 利用者実績、利用者アンケート報告と検討 / 6月 実施 指定管理者からの説明、子どもまちづくりクラブと子ども会議の活動について報告 / 10月 実施 BigVoice報告、来年度の事業内容検討

土日の開館時間変更について

約60名の中高生を対象にした利用時間についてのアンケートにより、土日の利用時間の延長を希望する人が多いことが明らかになりました。そこで、子どもセンター運営会議では、土日の利用時間を17時から19時までに改定する意見をまとめ、市に提言しました。それにより、2015年7月から土日の開館時間が19時までに延長されました。

子どもセンターの愛称「らいつ」



全国から41名48もの作品が集まり、子ども会議及び愛称検討チームで8つの候補作を選びました。そして4月20日に開催された子どもセンター運営会議で厳正な審査のもと、中学生が考えた「らいつ」が選ばれました。「らいつ」の由来は、英語でrights(権利) lights(ひかり)の2つの意味を持ち、子どもの権利の拠点として、未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在するという願いが込められています。

子ども 参加事業

やってみたいことを提案し実現する事業、子どもセンターの運営や事業に子どもの声を活かす事業、まちづくりへの子ども参加事業など、子ども参加をテーマとした幅広い事業があります。子どもセンターの核となる事業です。



子どもまちづくりクラブ

子どもたちが地域の一員として、まちづくりに取り組んでいる活動です。2018年は、「もっと若者を呼び込んで石巻をにぎやかにしたい!」という子どもたちの思いから、石ノ森萬画館もあるということで、「マンガのまち石巻」をテーマにしたコスプレイベント「まきコミ祭」をメンバーが企画運営し、開催しました。観光客の現状調査やイベントの企画運営方法、若者のニーズ調査などを実施し、様々な組織や団体の方にご協力いただきました。おかげさまで参加者は279名! 石巻に初めて訪れたという方も多く、子どもたちはまきコミ祭の可能性を感じた様子でした。また、2017年から行っている川開き祭りでのごみステーション設置活動も実施しました。前年の振り返りを踏まえて、環境保全リーダーの方々とも協力し、らいつ前の設置だけではなく、石巻駅前やアイトピア通りでの設置に加え、ゴミ拾いも行いました。今後も、子どもたちの視点から地域の魅力や課題について考え、まちづくりに取り組んでいきます。

今までの活動 立町大通り商店街のマップ作成、震災を風化させないためのモニュメント制作、水産イベントの実施、石巻の歴史マップづくり、石巻の復興の様子と子どもたちの願う石巻の未来が描かれた「夢まちフラッグ」の制作等

1月 らいつの日004準備・実施、歴史MAP制作、水産イベント準備 / 2月 水産イベント、歴史マップ制作 / 3月 イベント振り返り、歴史マップ制作 / 4月 歴史マップ完成&配布、子どもだけの意見交換会「マキトーク」準備 / 5月 子どもだけの意見交換会「マキトーク」参加、今年度の活動について / 6月 今後の活動テーマについて / 7月 イベントに向けたインタビュー&アンケート調査、川開き祭ごみステーション設置準備 / 8月 川開き祭ごみステーション運営、イベントに向けたインタビュー&アンケート調査 / 9月 イベント内容の検討、仙台コミケ視察 / 10月 イベント内容の検討、各企画の準備、広報活動(チラシ作成、Twitter作成) / 11月 各企画の準備、広報活動(ラジオ、TVに出演、チラシ配布)、まきコミ祭 / 12月 まきコミ祭振り返り、らいつの日005準備



まきトーーーク

5月6日(日) 35名 (小1～高3)

まきトーーーク！と題して、某TV番組のように子どもたちが石巻芸人となり、石巻の好きな所やこうなっているところについて考えるイベントを実施しました。まずはじめにピン芸人としてネタを考えよう！と、それぞれが石巻の好きな所、嫌いな所を考え、話し合いました。『海産物が美味しい。自然が多い。優しく元気な人が多い。遊び場が少ない。電車の本数が少ない。雨の日がくさい。川開き後のゴミが多い。』など様々な意見が出ました。その後、グループを結成してネタを披露しよう！と、好きなテーマを選び、石巻についてコントをしたり、絵を描いたり、口頭で詳しく説明したりと、みんな楽しく、様々な表現方法で発表していました。そして最後にMIP(Most Ishinomaki People石巻について本気で考えていたグループ)の発表！今回は高校生2人と小学生1人で「石巻あるある」を発表したグループがMIPを獲得しました。参加した子どもたちからは、『楽しかった、また参加したい、石巻のことがもっと知れた』という感想がありました。



子ども会議

子どもセンターの利用方法に子どもたちの声を反映するため、小学2年生から高校生までのメンバーが月に1度集まり、様々な意見を出し合っています。また、利用者から提案された子ども企画を承認するのも子ども会議の役割です。今年度の活動は、子ども会議のルールを自分たちで一から考えるところからスタートしました。そして運営会議から議題があがった、らいつを発信するYoutubeチャンネル「らいちゅーぶ(仮)」を開設するかどうかを利用者にインタビューし、開設を決定！その後実際にYoutuberに動画制作などを学びながら制作する『Youtuber講座』に繋がりました。また、らいつにWi-Fiを置くかどうかを話し合う『Wi-Fi会議』を実施。多様な年代から意見を聞くため、広く会議を周知し、実施しました。また、新たに追加したい本や漫画を利用者にアンケートで募集し、自分たちで歩いて本屋さんに行き、らいつに設置しました。今年度は小学生メンバーが多い中でも、自分たちの意見をしっかり発言し、らいつの利用について話し合っている姿が印象的でした。今後も話し合いを重ね、自分たちで課題を発見し、解決することができるよう活動を続けていきたいと思っています。



Big Voice

子ども対象 9月10日～10月5日実施

事業に子どもたちの声を活かすために、利用者ならだれでも参加できるBigVoiceを開催しました。BigVoiceは、子ども会議メンバーが企画実施を行い、利用者に子どもセンターについて楽しみながら意見を出してもらえよう工夫をしています。今年は「こんならいつはいやだ！」という声から、利用者がらいつに求める思いを知るためのアンケートを実施。また、らいつの正しい利用方法を楽しく知ってもらうために「めざせ！名探偵」を上映。「めざせ！名探偵」は子ども会議メンバーが自ら出演し、撮影から編集までを行いました。ビデオではらいつの利用の仕方を考え、らいつにきた利用者に上映し、クイズを出題しました。BigVoiceで出された意見は、各事業や利用方法に反映していきます。



水鉄砲大会

気温も暖くなり、「らいつの外で水遊びをしたい」ということから水鉄砲大会を企画！
いろいろな人が楽しめるように、水遊びでなく水鉄砲大会にしました。



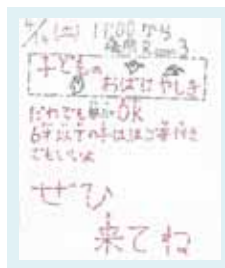
子どものおばけやしき

職員企画の「おとなの本気のお化け屋敷」開催後、今度は自分たちがおばけとなっておどかしたいということから開催を決定！おばけメイクも自分たちで研究し、当日に挑みました。



Let's Speak English

大学にいったら英語を学ぶために留学をしたいと思っている高校生が、今のうちに日常的に外国の方と交流をしたいということで、外国人の方をお呼びして英語で交流する機会をつくりました。



子どものおばけやしきの ポスター

子どもたちが自分たちで企画し、作成したポスターです。

子ども企画

子ども企画では、子どもたちがいつでも自由に子どもセンターでやりたいことを提案できます。普段やりたいことがあっても、なかなか実現できない子どもでも、子どもセンターでは、職員のサポートを受けながら、実現させることができます。自分で企画書を書き、参加者を集めたり、広報したりしながら、実現させることのむずかしさ、そして企画が成功したときの達成感を感じることができます。子どもたちから提案された企画は、子ども会議メンバーによって、実現できるかどうかの議論を行います。楽しそう、工夫したところがあるなどの視点で点数をつけ、合計点の8割以上を取ると、承認になります。小学生から高校生までの様々な世代の企画者による様々な企画が行われ、子どものやりたいと思ったことが実現できる場となっています。

H30 子ども企画一覧

提案者	内容	結果	実施日	参加人数
小学生	勉強大会	可決	1月27日	11人
小学生	太鼓の達人大会	可決	未実施	
小学生	カラオケ大会	可決	2月17日	8人
中学生	UNO大会	可決	3月25日	13人
高校生	逃走中	可決	3月25日	20人
高校生	バスケット大会	可決	未実施	
小学生	デュエマ大会	可決	3月31日	7人

提案者	内容	結果	実施日	参加人数
小学生	おばけやしき	可決	4月14日	11人
小学生	フラフープ大会	可決	未実施	
中学生	UNO大会	可決	5月27日	8人
小学生	逃走中	可決	6月16日	19人
小学生	デュエマ大会	可決	6月24日	7人
中学生	ボンバーマン大会	可決	7月28日	6人

提案者	内容	結果	実施日	参加人数
高校生	カホンたたこう！	可決	8月12日	4人
小学生	水鉄砲大会	可決	8月19日	16人
小学生	デュエマ大会	可決	8月22日	8人
小学生	山キャン	可決	未実施	
高校生	Let's Speak English	可決	12月7日	6人
中高生	ダンスチームの結成	可決	定期活動	

子ども 実行委員 企画イベント

夏祭りや石巻ハロウィン祭りは、だれでも企画者として参加できるように実行委員会形式で開催しています。子どものやってみたいを実現する場、また地域や学校や学年を超えてつながる場となっています。



夏祭り

例年、夏祭りは子どもたちがやりたいことを自分たちで企画し、店長となって準備していきます。今年は、かき氷、アイス、ホットケーキ、くじ引き、スーパーボールすくい、お化け屋敷の6つのブースと、最後に中高生のライブや子どもからおとなまで参加できるBINGO大会を行いました。店長となった実行委員からは「色んな人と関わって良かった」「もっと材料の準備をしておけば良かった」「みんなでお店や係を(分担して)やれてよかった」などの声がありました。

実施日：8月25日（土） 参加者：207名

石巻ハロウィン祭り

子どもまちづくりクラブが中心市街地活性化基本計画に向けて提案した「商店街でハロウィンパーティを開催する」を実現したハロウィン祭りも今年で5回目。今年は、メインイベントのまちなかでのお菓子集めイベントや仮装コンテスト、仮装づくりブースの他、子ども実行委員によるハロウィンカフェ、ハロウィンメイク、ハロウィンライブを行いました。お菓子集めでは、今年も45ヶ所の商店街や地域の方々にご協力頂き、仮装した子どもたちがまちを練り歩き、友達同士で地図を片手にどこに行こう？と相談する姿がまちなかでたくさん見られました！

実施日:10月27日(土) 参加者:741名

協賛:アイトピア大町会、アイトピア銀座会、立町大通り商店街振興組合、中央一大通り会、橋通り商店街振興組合 / 協力:いしのまき元気いちば、一般社団法人ISHINOMAKI2.0、株式会社まちづくりまんぼう、COMMON-SHIP橋通り



子ども エンパワー 事業

さまざまな体験を通して、自分のもつ力に気付くことのできる事業です。子どもエンパワー事業で自分の力に気付いたら、今度は、その力を地域や社会で発揮しよう！



アートラボ

芸術を通じて、表現方法の多様性やものづくりの楽しさを感じることができる事業です。自分の気持ちを言葉ではなかなかうまく表現できない子どもたちにも、様々な方法で思いを伝えることができることを知ってほしい。プロの芸術に触れることで普段体験することができないことを体験してほしい。自分の可能性を広げてほしいと願って取り組みました。好きなことに思いっきり集中し、学校でも家庭でもできない体験ができました。また、毎回アートラボに参加した子どもたちに実施しているアンケートで「3Dアートペンを使ってみたい」という声があったことから、3Dアートペンを扱える講師の方を探して開催しました。

日付 イベント名 講師 参加人数 / 1月 書初め大会 千葉久美子さん 7名 / 3月 光る泥だんごづくり 山田裕子さん 16名 / 6月 3Dアートペンで風鈴づくり ペンギンズアート工房 10名
8月 モザイクアート にじいろクレヨン 8名 / 12月 つくってみよう「光の箱」 株式会社乃村工藝社 68名



料理王

食を通じて、子どもたちが地域や社会と交流を深める事業です。地域の方を講師に招き、家でも簡単に作れる料理を地域の方と交流しながら学びました。1月には恒例となっている餅つきを開催し「餅がすごくのびてびっくりした」「つきたてのお餅が柔らかかった」など参加した子どもたちからも好評でした。3月には参加した子どもたち全員で協力し長い巻き寿司作りに挑戦したり、10月には卵を使わないコロッケを作ったりと多様な料理王を行うことができました。今後も地域の方々とのつながりを大切に、子どもたちの声をたくさん取り入れた料理王にしていきたいと思います。

日付 イベント名 講師 参加人数 / 1月 お餅つき&お雑煮作り 五ノ井初枝さん、立花よね子さん(地域の方) 19名 / 2月 石巻産イワシかば焼き作り 三陸うまいもの処とよ川 8名
3月 巻き寿司作り 巻き寿司研究会 20名 / 5月 ジャがいもでお菓子作り 武田さんのおやつ 12名 / 9月 季節のフルーツを使っのマフィン作り Ches Setta 13名
10月 かぼちゃのコロッケ作り 穀物菜食料理講師 9名



Earth Teens

社会・人権・平和をテーマに、子どもたちの「知りたい」「やりたい」そして「考えたい」気持ちを育てる事業です。今年はまちに出て自然を感じよう！ということで、避難所になっている公園へピクニック、カヌー体験など、地域のみなさんの協力を得ながら楽しく学べる企画を行いました。台風のため中止となったものもあり残念でしたが、今後も石巻だからこそ体験できること、raithだからこそのできることを様々な分野に広げて実施していきたいと思います。

日付 イベント名 講師 参加人数 / 1月 フェアトレードチョコでトリュフづくり いしのまきカフェ「」(かぎかつこ) 18名 / 2月 世界のトイレとお菓子 子どもセンター職員 5名 / 3月 らいつを飛び出そう！ 宮城県漁業協同組合、沢田かき処理場、(株)まるたか水産、海苔漁師 相澤みつる 9名 / 4月 防災ピクニック 子どもセンター職員 6名 / 5月 屋上で野菜を育てよう〜次世代の畑〜 えんどうまめさん 7名 / 7月 北上川カヌー体験！ NPO法人ひたかみ水の里 17名 / 8月 山キャンプ 子どもセンター職員 荒天中止 / 9月 漁師体験 共催:宮城県漁業協同組合、一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン、ヤフー株式会社 荒天中止 / 10月 ハロウィンパーティー 子どもセンター職員 6名 / 12月 しめ縄かざりをつくろう！ NPO法人こども∞感ばにー、わらすこ会 12名



青春力 -Youth Power-

中高生世代が様々なテーマを通じて地域や社会に関心を持ち、繋がることのできる事業です。高校生の利用が伸び悩んでいることを受け、様々なテーマのイベントを開催し、多様な層がらいつに来るきっかけづくりを行いました。外部から講師や大学生をお呼びするだけでなく、らいつから飛び出したイベントも開催し、地域のおとなと中高生がつながれる機会となりました。

日付 イベント名 講師 参加人数 / 2月 らいつごはん〜たこ焼き〜 6名 / 3月 卒業進級パーティ 16名 / 4月 らいつごはん〜手巻き寿司〜 6名 / 5月 男女集結！恋愛話 10名 / 6月 らいつカフェ〜大人たちとすべらない話〜 天野美紀さん(二級建築士事務所 A-MAND DESIGN) バルコキノシタさん(現代美術家) 7名 / 7月 こけしみそパンをつくろう！ 笠屋菓子店、NPO法人かざっこPROJECT 6名 / 8月 出張！らいつカフェ〜1日店長体験〜 協力：いしのまき学校(ISHINOMAKI2.0) 6名 / 9月 先輩マルシェ 宮城近郊の大学生や専門学生 5名 / 10月 MOVIE NIGHT〜野外映画鑑賞会〜 8名 / 11月 らいつごはん〜鍋〜 13名 / 12月 らいつ忘年会 21名

子育て 支援事業

乳幼児親子を対象とし、発達に合わせて参加出来る様々なプログラムを開催。プログラムを通してママ友を作ったり、子育てについて学習したりする機会を設けました。



ベビーマッサージ

はいはいまでの乳幼児親子対象。NPO法人ベビースマイル石巻の講師を中心に、親子のスキンシップの方法や大切さを学んだり、子どもの様子を聞いたり話したりする場にもなっています。



親子ではぴ☆はぴ

0歳児とその保護者を対象に、地域で活躍する様々な方を講師に招き、週替わりで子育てに関する様々なテーマで講座を実施。毎回サークルも生まれ、子育ての輪が広がりました。



Mカフェ

乳幼児親子がホッと一息つける場所を！ということで6月から開催。当初はベビースマイル石巻とのコラボイベントで、11月までの期間限定の予定でしたが、ママたちの要望により継続が決定。お茶をしたり、プチイベントで製作や手遊びもしたり、ゆっくりゆったり過ごせます。



パパ講座

今年度のパパ講座は全2回とも、ふれあい遊びを楽しみました。お家でもできる身近なものを使った遊びをたくさん教わり、パパも子ども達もにこにこ。それを見守るママ達も笑顔で、優しい時間が流れていました。パパのスキルアップにも、ママのリフレッシュにもなっているそうです。



親子でほかほか

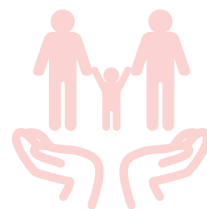
乳幼児親子対象。絵本、手遊び、わらべうた、身近な素材を使った製作、簡単お菓子作りなどを通して、親子のスキンシップを図ると同時に、参加者同士の交流・触れ合いにもなっています。



音楽であそぼう！

しっかり歩く1～2歳児対象。音楽に合わせて、楽器、ボール等を使って親子で楽しく身体を動かしました。リピーターの多い人気プログラムです。

土日子育て相談室



土曜日及び日曜日にも子育てに関する相談をおこなっています。10時～15時は「休日子育て相談員」がいますので子どもと過ごしながらゆったりと相談することができます。

移動 児童館 事業



市内に一館しかない児童館らいつに、遠くてなかなか行けないという声に
応えて、子どもセンターから離れた地域(昨年度までは主に河北地区と
桃生地区)で地域のNPO、石巻市社会福祉協議会の協力により遊び場を
開催してきました。

今年度は、石巻市内の様々な地域に入り、子どもたちの放課後の様子
や、子どもたちの遊びの現状を幅広い地域で調査していくため、震災以
降人口移動が多かった稲井地区、釜・大街道地区、蛇田地区に焦点を当
て、遊び場を通じて子どもたちの声をきいていくことを目的として行い
ました。

稲井地区:6月16日(土) 66名 @稲井小学校 / 蛇田地区:10月22日(月) 50名 @公民館 / 釜地
区:10月27日(土) 87名 @釜小学校

企業との 連携事業



企業の持っている専門性を子どもたちに伝えたい。そして、企業の方にも
子どもの権利を知ってもらい、子どもにも力があることを知ってもら
いたい。そんな思いが一致した企業と連携し、企業の持っているプログ
ラムを子どもセンターで実施しています。

1月28日 アロマバスソルトづくり〜地球をつくる、水の大切さを考えよう〜 16名
ELGC 株式会社アヴェダ事業部、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

5月26日 子どもセンターフラワープロジェクト〜商店街とらいつをお花でかざろう〜 21名
サントリーフラワーズ株式会、サントリーホールディングス株式会社

7月21日 元気なみやぎっ子のためのキッズフェスタinいしのまき 331名(ブース利用)
株式会社仙台ばど

9月1日 きれいにてあらい 23名
ライオン株式会社

12月21日 ジャッキーのクリスマス工作教室 18組(41名)
株式会社バンダイナムコホールディングス、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

12月21日 ガンブラ組み立て体験会 28名
株式会社バンダイナムコホールディングス、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

12月27日 子ども陶芸教室 15名
サントリーホールディングス株式会社

地域との 連携事業



通年 1学年70名

釜小学校6年生総合

総合の時間を使い、まちづくりをテーマに1年間出前授業を行いました。

石巻市釜小学校

4月15日・5月27日・6月5日・7月14日 参加:計39名

Reborn-Art Festival ×Tカード

みんなで石巻を盛り上げようと、子どもたちでアート作品の制作を行いました。

株式会社Tポイント・ジャパン、リボンアートフェスティバル実行委員会

5月19日 参加:代表5名

震災後、復興・防災に取り組んできた石巻市の子ども・若者と

国連事務総長特別代表（防災担当）との対談

子ども・若者の意見が復興や防災に反映されることを目指し、国連国際防災戦略事務局

(UNISDR)のトップであり、国連事務総長特別代表(防災担当)の水鳥真美氏との対談を行いました。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)駐日事務所

7月31日・8月1日 参加:けん玉貸出:47名 けん玉づくり:16名 検定:15名 計78名

けん玉

川開き祭りにけん玉検定や自分だけのマイけん玉づくりのワークショップを開催しました。

プロプレイヤーによるパフォーマンスもありました。

KENDAMATOHOKU、ビームス創造研究所、ヤフー株式会社

6月16日 参加:代表7名

子ども防災サミット2018

3つの地域をネットで中継し、大きなモニターで各地域の市長や代表の子どもたちで防災を

テーマに話し合いを行いました。

石巻市、狛江市、芦屋市



子どもの 権利の啓発

2018年11月2日～20日

の間、子どもの権利に

関するDVD上映・館内

オリエンテーションク

イズ・絵本などの展示

を行い、子どもや親子

への啓発を行いました

。最終日の20日は

「世界子どもの日」で

もあり”おとな交流会”

も行いました。

研修事業



子ども一人ひとりが、今を生きる主体として大切にされ、自信と希望を持って育つことのできる地域や社会をつくるために、地域の支援者のみなさんと一緒に多様な視点から学びました。

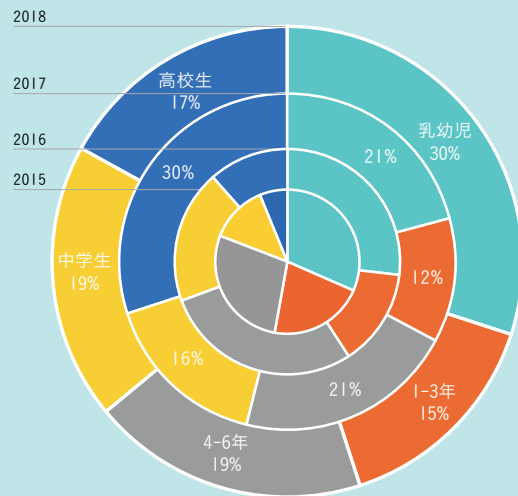
子ども子育て支援者講座

5月31日 赤ちゃんと子どもの権利 安部芳絵氏 28名

9月6日 多様な子どもたちの自己重要感 本郷佳江氏 20名

データで見る子どもセンター

2018年1月から12月までの利用者延べ人数は27,053名でした。昨年の報告書で課題としてあげていた小学生の利用者数は、約10%増加しました。土日を中心とした職員体制の整備や大学生ボランティアの導入により、子どもたちと日常の関わりが増えたことが要因として考えられます。中学生の利用者数も、約10%増加しています。小学生時代から利用していた子どもたちの利用が多く、小学生時代の利用が中学生での利用につながっていると考えられます。また乳幼児の利用者数は、4月からMカフェをスタートさせたことで、定期開催事業の参加人数とともに、一般来館者も増加しています。乳幼児親子同士がつながる場面も増え、リピーターが増えています。また前年に比べ、子ども企画の提案が増えています。今後も、子どもたちと日常の関わりを大切にしながら、子どもたちの「やってみたい」が形になるようにサポートしていきたいと思います。一方、一般利用者全体をみると、2017年に比べ、約200人少なくなっています。大きな要因は、昨年より高校生の人数が1500名も減少している点になります。2016年に5024名と大幅に増加したものの、2017年は減少傾向がみられ、2018年も2520人と、2016年の約50%に減少しています。高校生の利用促進に向け、対策が必要な状況です。これから子どもたちの声を聴き、その声を活かし、0歳から18歳までの子どもたちが幅広く利用できるよう環境づくりに取り組みます。

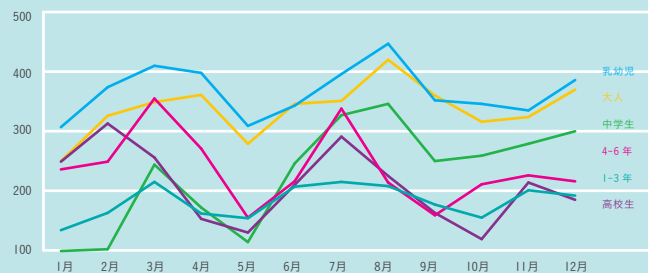


1-12月 一般来館者年齢別割合

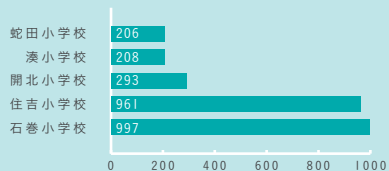
1-12月 延べ来館者数

	乳幼児	小学低	小学高	中学生	高校生	おとな	合計
一般来館	4415	2195	2858	2750	2520	4064	18802
定期開催事業	1289	184	239	197	174	1143	3226
行事	424	437	832	75	172	742	2769
子ども企画	7	34	73	17	8	5	144
団体利用	246	201	260	86	112	671	1482
見学	3	234	69	1	25	298	630
総合計	6384	3285	4331	3126	3011	6923	27053

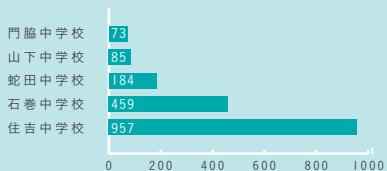
1-12月 一般来館者年齢別推移



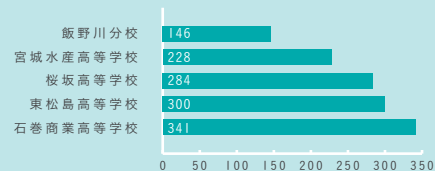
小学校別登録者数(上位5校)



中学校別登録者数(上位5校)



高等学校別登録者数(上位5校)



さいごに



子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。子ども参加とは、子どもたちの声をよく聞き、その声を運営や事業に活かしていくことです。子どもセンターではすべての事業に、子どもたちが意見を言う機会があり、その意見は事業に活かされています。ゴミの問題や飲食の場所など利用についても、子どもたちの利用者代表である子ども会議がどうするかを検討し、ルールを作ってきました。また、子どもたちがやりたいことを提案し、実現する仕組み「子ども企画」があります。子ども自身により、水遊び大会、カードゲーム大会、3on3大会などさまざまなイベントが提案実施され、活気あふれる子どもセンターの要素の1つとなっています。子ども参加を実現することは、じっくり子どもと向き合う手間と根気、そしておとなの理解が必要です。そして、子ども自身にも、自分の思いを伝える力、やりたいことを実現する力が必要です。それらの力は遊びや他者との関わり、話し合い、さまざまな体験などをとおして子ども自身が獲得していく力です。子どもセンターがこれからも子どもによる子どものための施設でありつづけるために、子どもの遊びの重要性を理解し、子どもが遊びを通して育つ場であるとともに、子どもの主体性を大切に、子どもの社会参画を実現する児童館として、また、世界に子どもたちの声を発信する拠点として、地域のみなさんのご理解を得ながら邁進したいと思います。



石巻市子どもセンター

〒986-0824 石巻市立町1丁目6番1号

TEL:0225-23-1081 / FAX:0225-23-1080

開館時間 9:30～19:00

休館日 年末年始、祝日、第1・3木曜日

